

平成28年12月29日

柏市立南部中学校

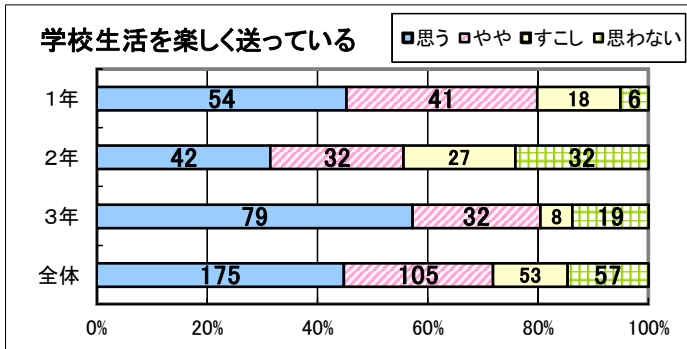
平成28年度2学期・学校自己評価分析

保護者回収率 82.0%：回答数 342 名

生徒回収率 94.5%：回答数 394 名

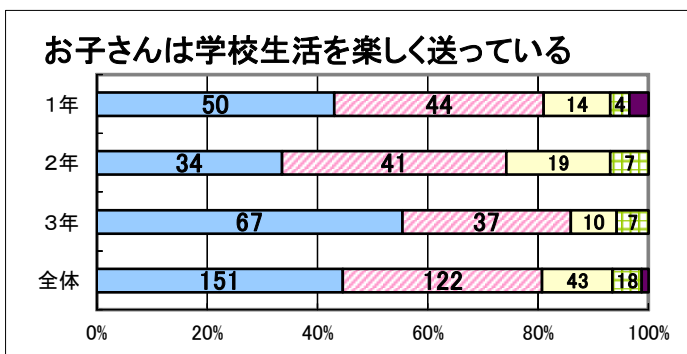
1. 学校生活の満足度<生徒> ☆経営重点

目標90% 78.7% (1学期) → 71.8%



本年度の重点目標として、「誰もが学校に来ることが楽しい」とする学校作りとしたが、1学期の結果は、1年生79.8%、2年生54.0%、3年生80.4%であり、各学年とも達成目標の90%に至らなかった。全校で110名(27.9%)の生徒が、学校が楽しくない(少し)としている。

<保護者> 81.2% (1学期) → 80.8% (H27・84%)



110名の生徒について、引き続き、原因を共有し、粘り強く対策を講じていきたい。(大切に)

本年度1学期は全校で否定回答が85名(21.3%)であった。保護者の回答も同様の傾向が見える。また、別紙経年変化を見ても本年度2学期は極端に下がってしまった。特に2年生の46%は緊急の課題である。

2. 本年度の重点目標から

H26年度から、「学校へ来ることが楽しくない」と回答した約30%の生徒の原因を分析し、その対策を継続的に実行して3年目になる。学校が楽しくないとする原因を以下の4点に絞った。本年度2学期の評価分析も関連項目について行いたい。

- (1) 授業がわからない (学力向上プラン)
- (2) 目標生活が苦手 (目標を見失う)
- (3) 集団が落ち着かない (凡事徹底プラン)
- (4) 人間関係作りが苦手 (思いやり向上プラン)

H28年度スローガン

「変わる南部中
伸びる南部中」

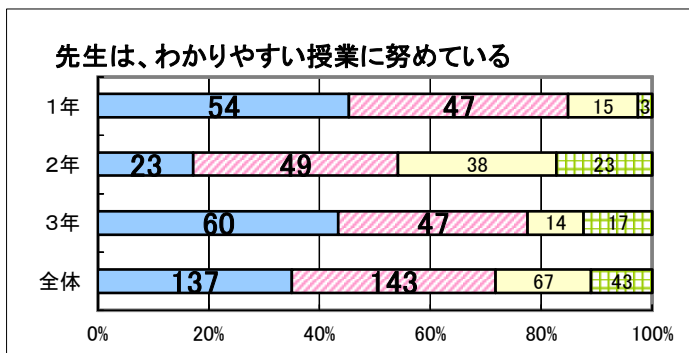
(1) 仮説：授業がわからない 目標 各学年柏市学テ標準スコア50 (あと少し)

学校が楽しくないとする原因の一つに、授業がわからず参加していると苦痛でしかない。授業に参加せず、授業を妨害する等様々な面で悪影響が生じている。

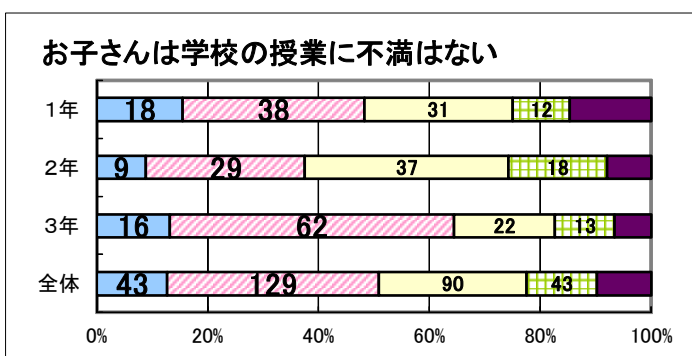
① 授業の理解度

< H28 生徒アンケート > (数値は人数)

生徒アンケートの結果は、2学年の数値が低い。1学期は全校で82名(20.6%)の否定回答であったが、2学期は110名(27.9%)であった。学校が楽しくない生徒と一致する。

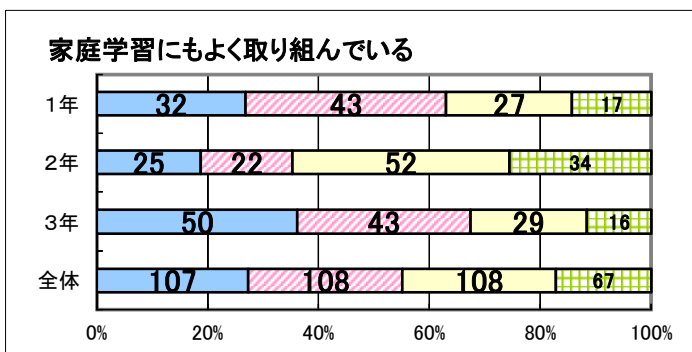


< H28 保護者アンケート > (数値は人数)

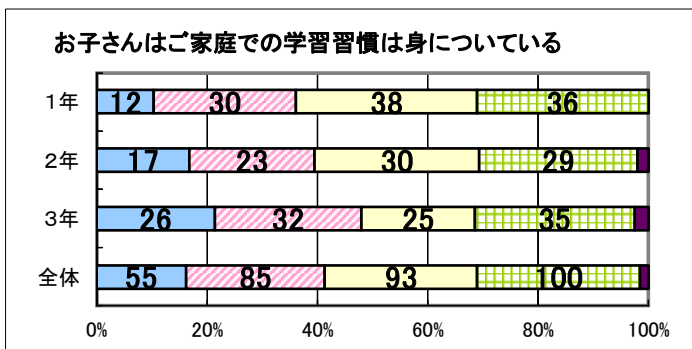


保護者は更に厳しく、学校の授業に期待するところが大きいと考える。否定回答は1学期92名(31.0%)2学期は133名(33.8%)であった。2学期は学校の授業に対する不満が高まり、不信感を高めていると分析できる。

② 家庭学習習慣 <生徒アンケート> (数値は人数)

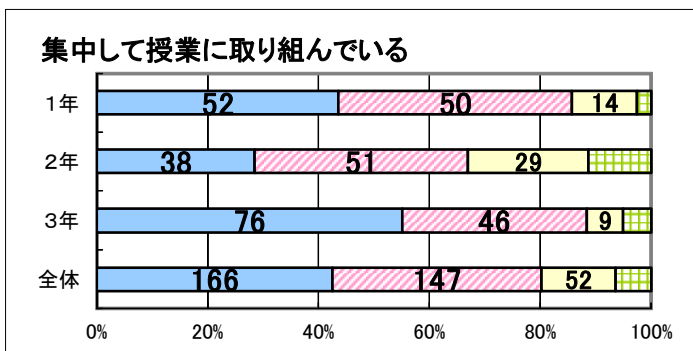


< H28 保護者アンケート > (数値は人数)



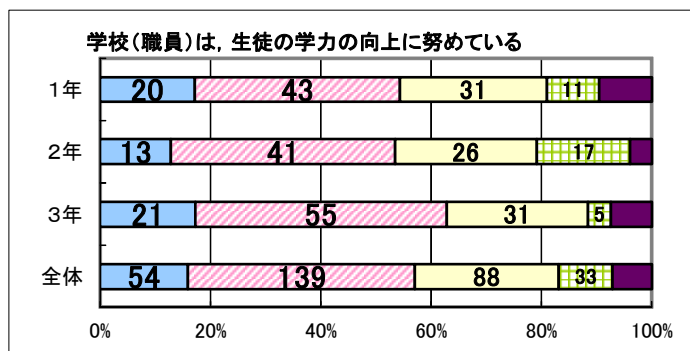
家庭学習の問題は柏市でも問題になっている。否定回答は、1学期生徒43.6%(174名)、保護者は55.2%(164名)、2学期は生徒44.4%(175名)保護者は193名(56.4%)と更に否定回答が増えている。本校も家庭学習が大きな課題であると言える。本年度、別調査で家庭学習時間が他校に比べても毎日平均1時間程度少ない。学習方法の指導を行い、主体的に学習できる能力を育成する必要がある。また、宿題を効果的に活用する。授業が理解できても定着率が低くテストの結果が出ない。その結果、学習嫌いが増加している。スマホゲーム等も大きな原因か。

③ その他（学力向上に関して） 数値（人数）



生徒はとても良く授業に取り組んでいる。79%の生徒が肯定的な回答である。否定的な生徒は授業がわからないとしている。本校の特徴は、生徒及び保護者共に学校の授業（教師）に依存する傾向が強い。また、毎年2年生の授業が緊急の課題でもある。

保護者の「学力向上」に関する意見は、1学期 30.6%、2学期は 35.4%の保護者が否定的な回答であった。この傾向は学年差は無くどの学年も保護者も授業に期待する所が大きいと言える。また、宿題が少ないとする意見も多い。



(2) 仮説：人間関係の希薄さ 長欠生徒目標3%以内 現在 3.4% (14名)

学校が楽しくない原因の一つに、人間関係の希薄さが考えられる。思いやりの重要性についての生徒の認識は高くなったが（別紙資料）実行経験が未だ低い。いじめ調査に於いても、特に冷やかしかからかい、暴言等の日常生活に於ける人間関係作りの軽薄さが原因と思われる事例が大変多い。（LINE いじめも増加）

長期欠席生徒については、具体的な方針を打ち出し重点的に取り組んでいるが、中々成果は出ない。

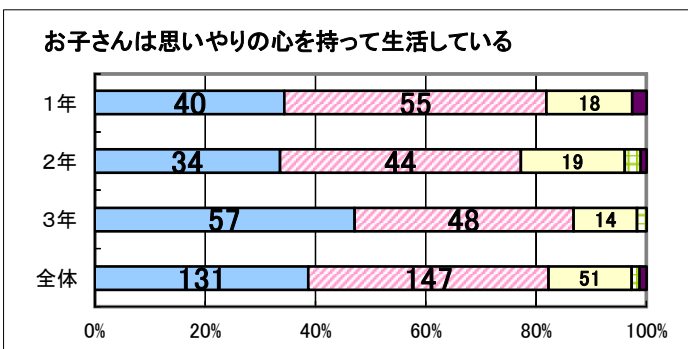
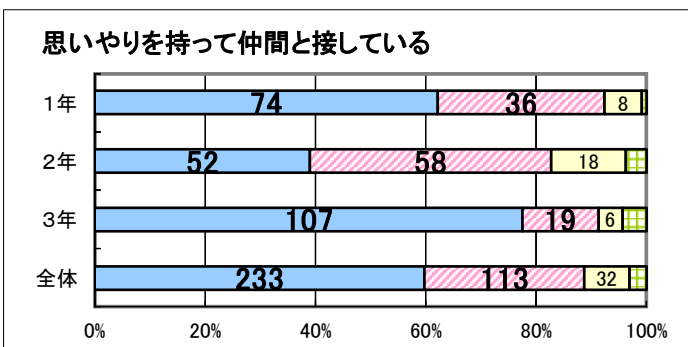
いじめ調査	件数	未決
H26年度	61	1
H27年度	41	2
H28年度(12月)	13	1

長欠報告(12月)	30日	全欠席	長欠率%
平成26年度	10(19)名	1(1)名	2.4(4.5)
平成27年度	13(17)名	2(2)名	2.9(3.8)
平成28年度	14名	1名	3.4%

現在30日以上欠席者14名は、1年生3名、2年生5名、3年生6名となっている。内、後半に登校の兆しを見せている生徒が7名と対策の効果が出てはいる。3学期は累積欠席数で、30日前後になってしまう生徒について重点的に取り組みたい。

※（ ）内の数値は、3月末の数値である。

① 思いやり 目標値 90% 1学期90.7%
2学期88.7%
重点目標の一つである「思いやり」について



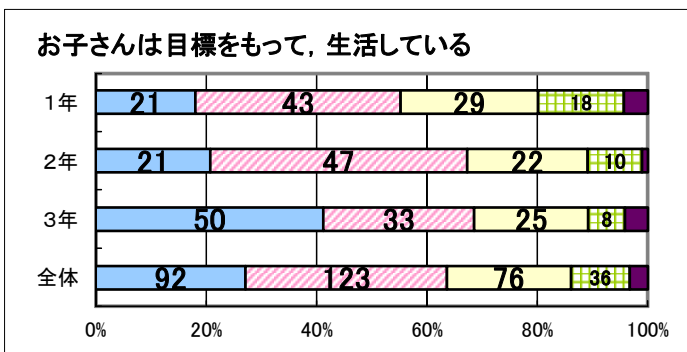
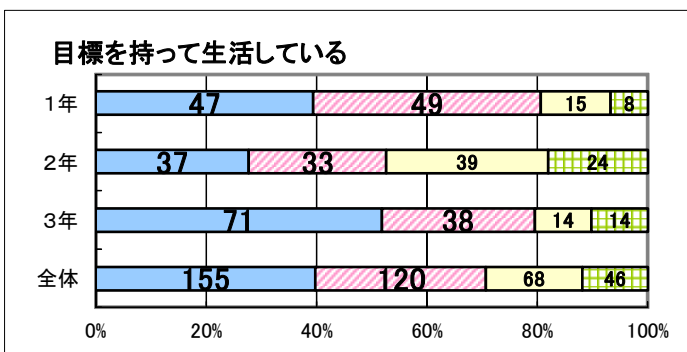
思いやりを持って仲間と接しているかという質問に対して、特に生徒は高い評価である。否定回答は、生徒 8.6%、保護者 16.4% である。3年目にしてこの目標に関しては意識化が図れたと言える。本校の特徴として、生徒個人では思いやりの気持ちを大切にしているが、人間関係作りに苦手な生徒は自分の意思に関係なく、他に追従する傾向が特に学年が下がるほど見られる。

自分の意見を素直に表現できない生徒が多く、行動にも表れている。学級会などの方法で自分の意見を集団で素直に表現し、何が正義かを考えさせる、集団指導等の必要がある。学級会の重要性について考えたい。

② 目標生活 目標80% 1学期72.9%→69.8%

昨年度に比べ、特に保護者の否定回答が大きくなった。本年度否定回答は保護者 32.7%、昨年度は 12.5%であった。また、学年差が見られないのも特徴。

何事に対しても、教師から「意味を説明し、意義を見いださせ、価値付け」を行う実践を行っているが効果が出ていない。小さな目標を与え活動に意味づけを行う必要がある。本校の生徒には「充実感・達成感」が重要である。その為にも、評価を工夫し、充実感を与えることで、学校が楽しくなる。特に2年生は目標を見失っている傾向か。



(3) 仮説：集団が落ちつかない（凡事徹底ﾌﾗﾝ）

① 基本的な生活習慣について 目標は80% 2学期保護者評価が低い

質問項目（内容）	保護者肯定評価		生徒肯定評価		着目
	1学期	2学期	1学期	2学期	
規範意識（自分）	85.7%	86.5%	89.4%	87.3%	▼
礼儀正しさ	53.6%	52.0%			▼
挨拶（自分）			86.7%	82.0%	▼
身だしなみ	64.9%	63.2%			▼
清掃（自分）	68.6%	63.2%	85.4%	82.0%	▼
時間（自分）			85.4%	82.7%	▼

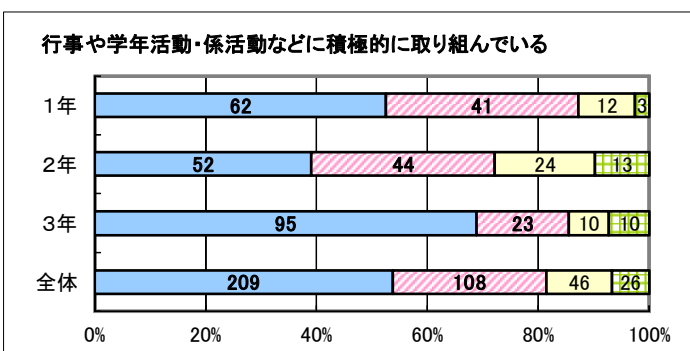
アンケートについては、自分以外の評価である事に留意して考える。全項目について1学期よりも自己評価が下がっている。特に保護者の学校に対する意見が厳しい。基本的な生活の部分が本校では大きな課題である。生徒評価が高いのも気になる。目標値を高めた指導の必要性を感じる。凡事徹底は明らかに弱い部分である。

★ H28 生徒指導件数（軽微な指導を除く統計）

指導統計（報告のみ）	1学期	9月	10月	11月	12月
特別指導（保護者来校）	7	6	1	0	0
学年指導（学年内対応）	28	10	10	9	3

生徒指導の案件は報告がなされたものみのDataである。来年度から統計を行いたい。

(4) その他 一点突破（集団への所属意識の向上） 目標80% 現在79.7%
自己肯定感本校ではとても重要（生徒指導面）

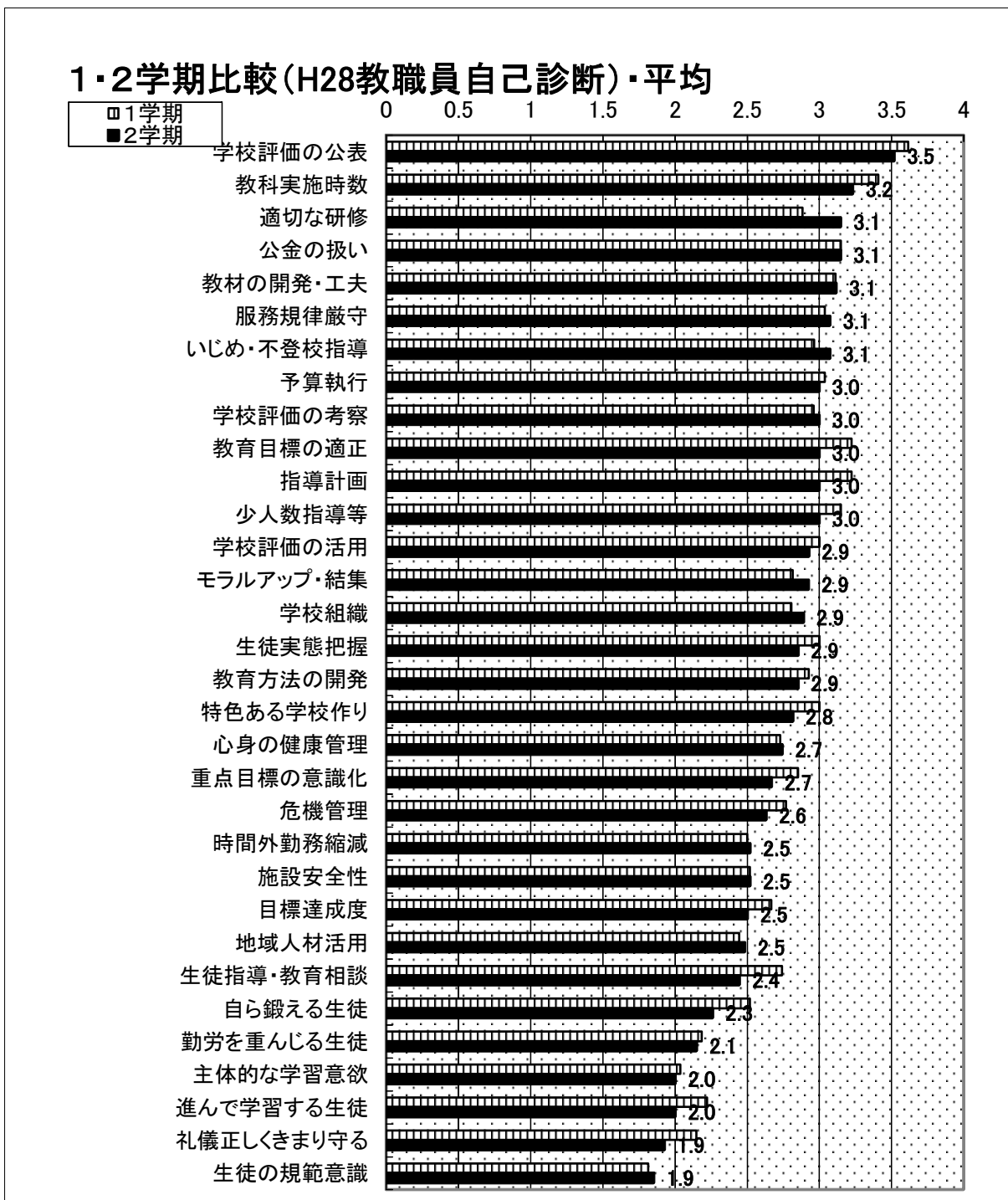


本校の行事や諸活動に関しては79.7%の生徒が肯定評価している。行事に関しては集団の協力性も十分であり、その達成感は大きなものである。本校の特徴として行事については良い面でもあるので継続したい。しかし、行事が「打ち上げ花火」になってしまっている。行事に於ける成果を日常生活に活かす工夫が早急に望まれる。生徒組織の活用がPoint。

(追補) 行事と同じように、「奉仕活動」にも着目したい。本校生徒は「奉仕作業」が弱い。意図的な作業計画が必要である。

3. 教職員アンケートから

(本年度良いスコア順に並び替えたグラフ)



▼ 評価2.2以下の項目

- ・ 進んで学習する生徒 (2.0)
- ・ 主体的な学習意欲 (2.0)
- ・ 勤労を重んじる生徒 (2.1)
- ・ 生徒の規範意識 (1.9)
- ・ 礼儀正しくきまりを守る (1.9)

特に「組織が機能していない」という意見が出された。学校経営目標の具体的な施策について、各学年で具体的なプランを立てて実践して頂きたい。

4. 3学期の具体的な重点施策（取り組み）

2学期の重点施策より

3学期は、来年度に繋げる大切な時期である。特に現状を生徒と共に共有し、来年度の見通しを持たせた指導が必要である。現状のままで良いのかを真剣に考えさせたい。また、教職員も日常の指導に追われて「目標」を立てての実践が弱い。経営の重点から、「生徒の望ましい姿」を意識し、変容を見据えて計画的な取り組みを実行しなければ毎年同様の結果となる。3学期は来年度に大きく影響する。

★以下に挙げる施策は、3学期の重点です。（その他の施策については継続）

3学期の重点（生徒と共に現状を考える）

生徒活動の実践（教師は放任指導に注意。生徒に達成感を与えながら）

- ・ 日常生活を見直し、多くの生徒と共に現状を考える機会を持つ。
- ・ 教師は生徒に対して「具体的な意味付け」と「適切な評価」を重視する。

(1) 学力向上プラン

- キャリア教育（進路指導）から学習の意義を考えさせる。（学年）
- 家庭学習の工夫・家庭学習ノートや教科宿題等具体的な実践（学年）



(2) 凡事徹底プラン

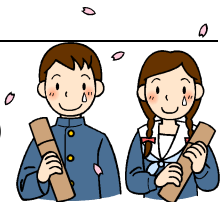
- 授業に於ける基本的な規律の見直しと現状分析から具体的な取り組み（学年）
- 5分前着席運動（学年・生徒指導部）←特に給食開始時を改善出来ないか
- 時限出席簿の徹底・全職員で取り組む意義（生徒指導部）★本校の生命線
- 帰りの会前黙想活動の見直しと改善・来年度に向けて（生徒指導部）

(3) 生徒活動活性化プラン

- 一点突破・自己有用感の向上・送る会→卒業証書授与式に繋げる。（全組織）
- 学級会の効果的な開催（中間層意見の吸い上げの場）★現状の危機感共有

(4) 思いやり向上プラン

- 1年間を振り返り、「感謝の気持ち」を最重点指導（全組織）
- 道徳の授業の重視・全職員で取り組む意義（道徳推進教員・学年）



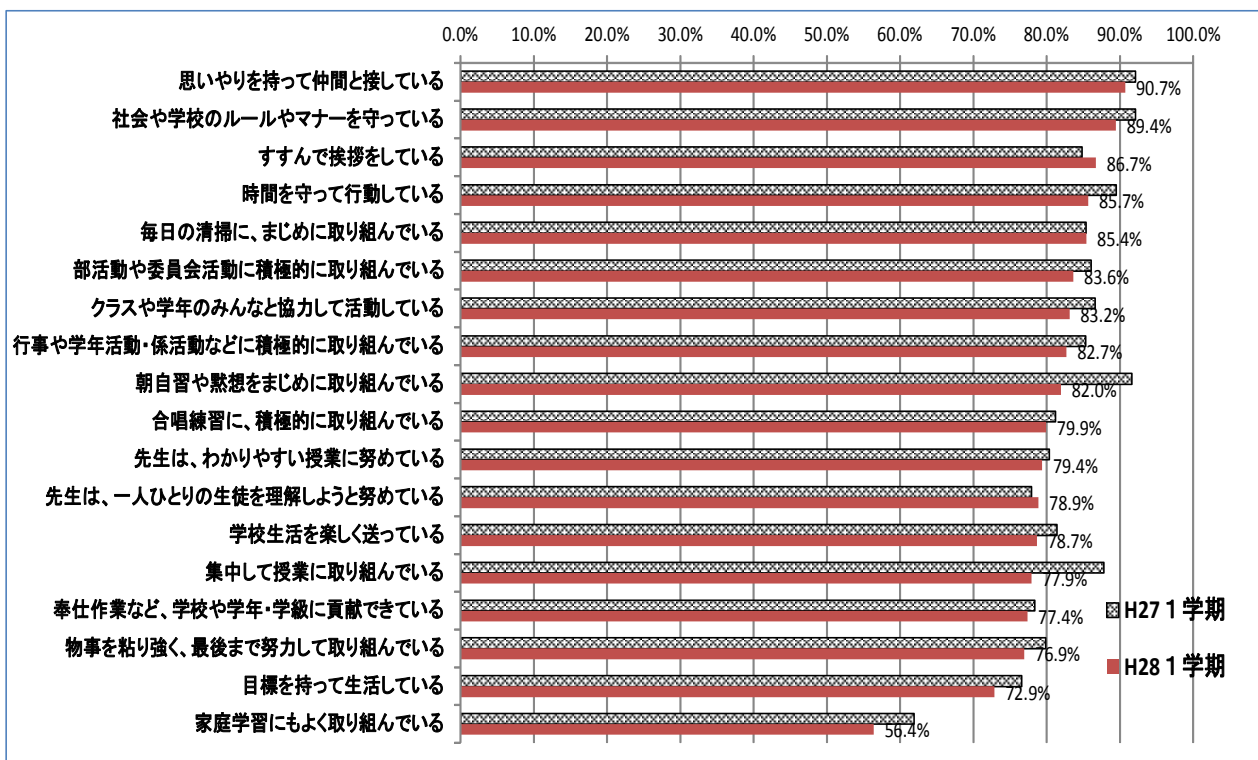
(5) その他

- 意味を説明し、意義を見だし、諸活動の価値付けを行う。★本校は特に重要必ず小さな「目標」を与え、必ず正しい「評価」を与える諸活動（学年）
- 新たな長欠生徒を出さない。（長欠担当・生徒指導部・学年）★現状維持
- 卒業式に焦点を当てた計画的な指導（特に1, 2年生の心の指導）
- 生徒と共に考え問題点を共有し、生徒の力を引き出す。（学年）

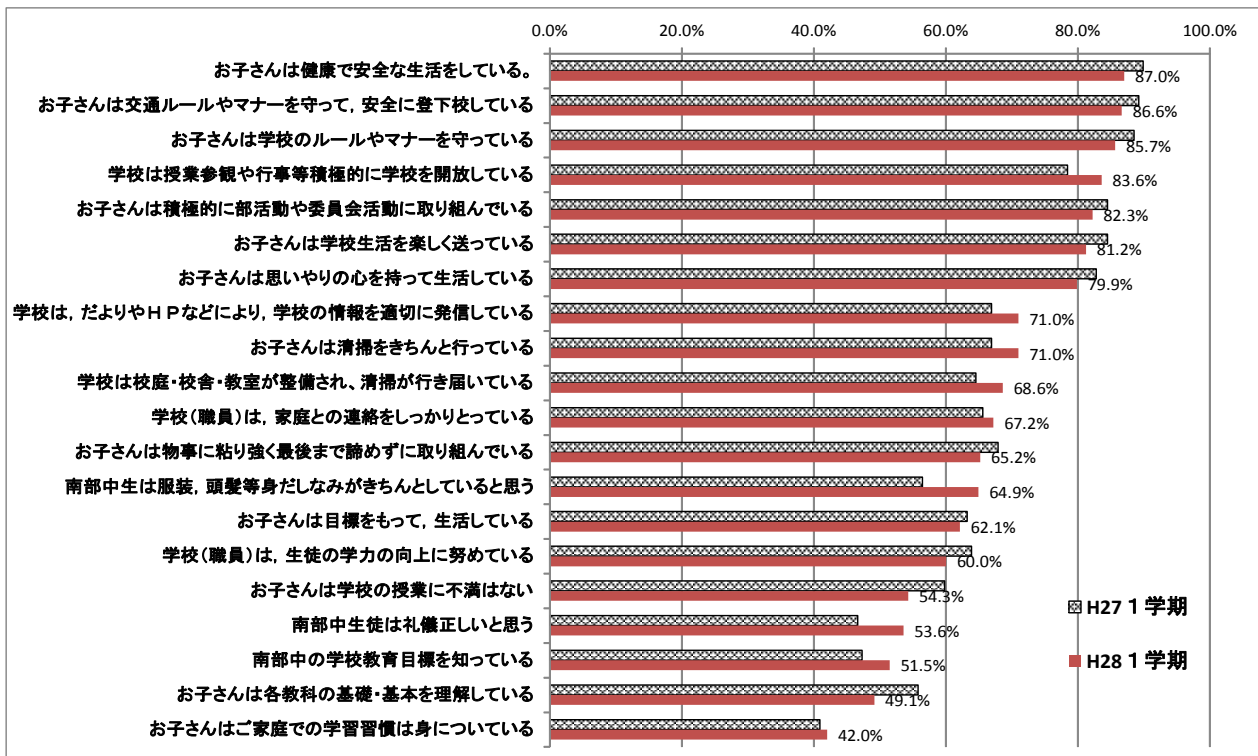
「変わる南部中・伸びる南部中」 Team 南部

<参考1> 昨年度1学期との比較

(1) 生徒自己評価アンケート結果 (肯定評価) 回収率 94.5% : 回答数 394 名

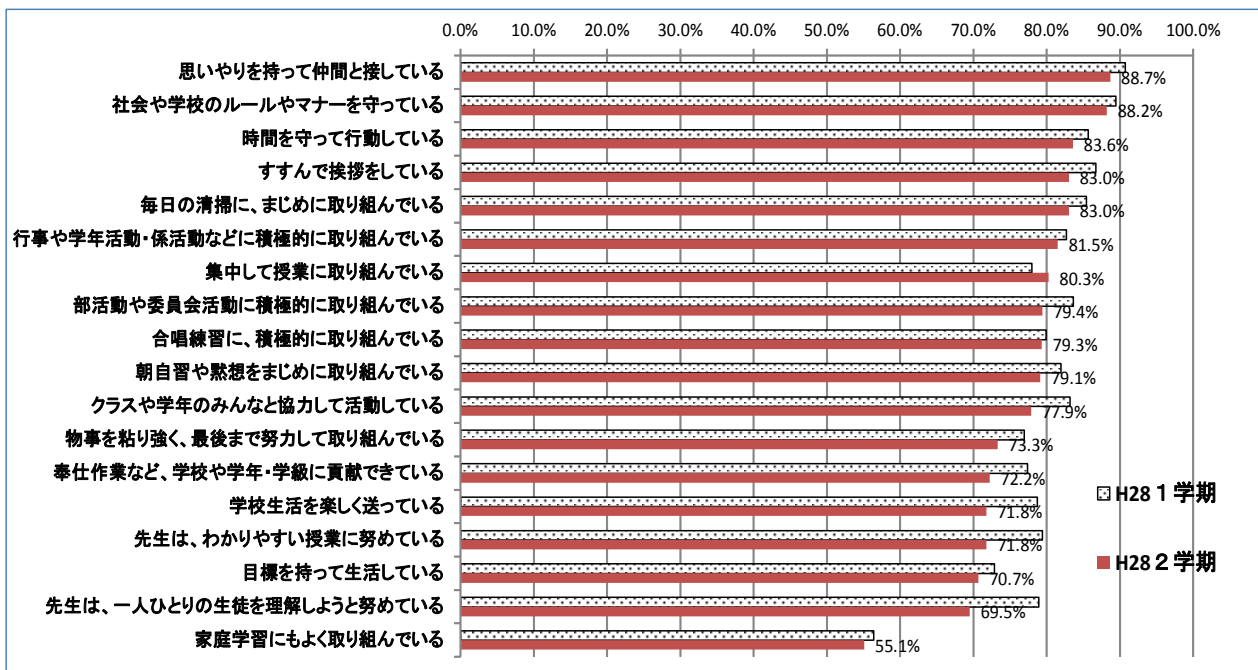


(2) 保護者評価アンケート結果 (肯定評価) 回収率 82.0% : 回答数 342 名



<参考2> 本年度1学期との比較

(1) 生徒自己評価アンケート結果 (肯定評価) 回収率 94.5% : 回答数 394名



(2) 保護者評価アンケート結果 (肯定評価) 回収率 82.0% : 回答数 342

